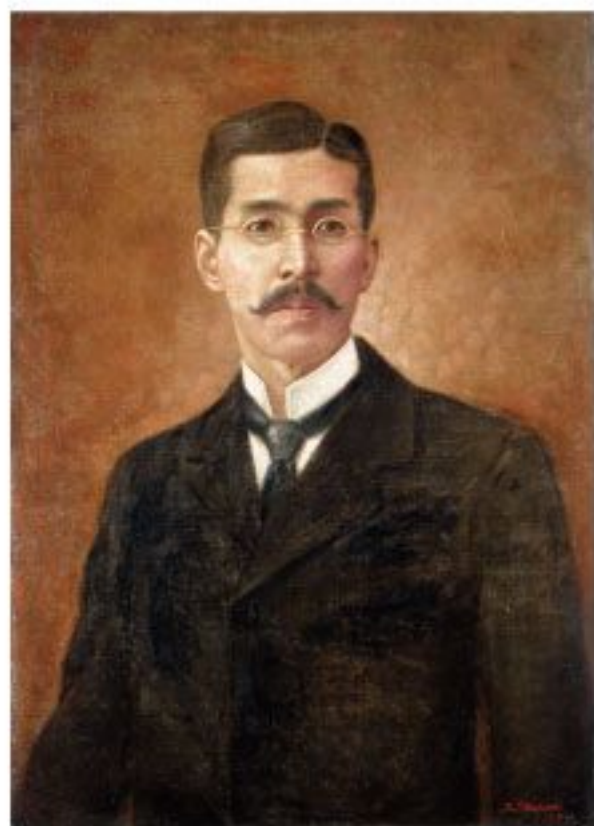




「庄内の美術家たち」展は、庄内地方における美術動向や郷土作家の活動を顕彰し紹介するシリーズ企画です。今回は洋画が全国で隆盛した20世紀初頭(明治末～昭和初期)に焦点を当て、当時洋画表現に惹かれ学んだ11名の画家が残した作品約50点を展覧します。

庄内の美術家たち 5

【一面 作品図版】

内藤秀国(女性像) 昭和初期
キャンバスに油彩
庄内町内藤秀国水彩画記念館蔵



- 【作品図版】
- ① 宮裡孝造(高山樗牛像) 1916(大正5)年 キャンバスに油彩 鶴岡市郷土資料館蔵
 - ② 小野幸吉(静物) 1924(大正13)年頃 キャンバスに油彩 山形県立酒田高等学校蔵
 - ③ 石井弥一郎(真鶴(入江)) 1968(昭和43)年 キャンバスに油彩 山形美術館蔵
 - ④ 土佐神豊夫(平田吉太郎像) 1943(昭和18)年 キャンバスに油彩 個人蔵
 - ⑤ 斎藤長三(人々のいる丘) 1938(昭和13)年 キャンバスに油彩 宮城県美術館蔵
 - ⑥ 市川信太郎(残されし心) 1927(昭和2)年 キャンバスに油彩 宮城県美術館蔵
 - ⑦ 高山長一郎(アネモネ) 1929(昭和4)年 紙にガッシュ、油彩 個人蔵
 - ⑧ 賀原みつる(女性像) 1932(昭和7)年 キャンバスに油彩 個人蔵

